

Title	GLOCOLブックレット02 はじめに
Author(s)	思, 沁夫
Citation	GLOCOLブックレット. 2009, 2, p. 3-5
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/48380
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

はじめに

思沁夫 大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任助教

この報告書は大阪大学の文理融合戦略ワーキング計画を実施する目的で、グローバルコラボレーションセンター（以下 GLOCOL）とサステナビリティ・サイエンス研究機構（以下 RISS）が2008年春に開催した「多様性、持続性-サステナビリティ学教育の挑戦」というワークショップの発表、討論を編集、加工したものです。

今回のワークショップは文理融合戦略ワーキング・ワークショップの第3回目のイベントとして開催されました。今回のテーマが「サステナビリティ学教育」になったのは、2007年から大阪大学は大学院高度副プログラムを実施しており、文理融合のアプローチが学術研究にとどまらず、教育現場にも及ぶようになったからです。言い換えれば、私たちは学生、若手研究者に対して、今までとは違う教育を実施しなければならないという課題に直面しています。

講演者の味埜 俊先生は、「MINO モデル」などで世界的に知られている水問題（廃水処理、浄化）の研究者ですが、「多様性」、「俯瞰的な視点」など文系研究者にも十分通用する理論を展開しているだけでなく、サステナビリティ学連携研究機構（IR3S: Integrated Research System for Sustainability Science）においてサステナビリティ学教育を推進する立場にあり、大学院（修士）や短期研修など様々な形の教育実践に取り組み、探求性に富んだ実践事例も紹介され、大きな成果を上げてこられました。文理融合型教育を進めるにあたって、特に研究と教育の「国際性」を重視する GLOCOL から見ても、参考にさせていただけるところが多くありました。

以前より、大阪大学は「文理融合」の重要性と必要性を認識し、文理融合戦略ワーキングを立ち上げ、文理融合型の研究を推進してきました。特に GLOCOL と RISS の成立に伴って、その取り組みは一層強化されました²。特にここで強調したいのは、人間の安全保障の視点の重視です。「持続」という考え方は大変重要

ですが、人々の安心・安全という核＝コアがなければ、その目的が問われることとなります。つまり、私たちの取り組みの特徴を簡潔に表現すると、人間の安全保障とサステナビリティ学の対話と融合を図り、そのプロセスを通じて新たな視点、研究協力関係の構築を模索することにあります。

「低炭素化社会」に向かって、日本の技術と産業は大きく変化しつつあります。省エネルギーの技術開発は重要な意味をもちますが、それだけでは方向転換にはなれません。特にグローバル化によって技術移転が加速し、異なる環境のもとで(特に先進国から発展途上国へ移転する時)技術の応用と再開発が進められてゆくと、私たちは、国、地域、人々の生活、自然環境と技術の関係正面から考える必要があります。つまり、技術の応用による環境への負担、さらに社会の仕組みが変わることによって生まれる問題群を視野に入れなければなりません。省エネルギーの最新技術を導入すれば状況は良くなるという発想がまだに大きな市場を支配しているようですが、科学技術を相対化し、地域の多様なニーズ、状況に合致させていく協力が必要であり、そこにおいて、サステナビリティと多様性-人間の安全保障の融合は大変重要と思われます。今回のワークショップでの石井善明先生、住村欣範先生の発表は、それぞれ視点は異なるものの、こうした問題に正面から取り組むものです。

本報告書を読んでいただければ判りますが、3人の発表者の発表、討論は多様な視点、アプローチが見られる一方、課題も少なくありません。しかし、新しい視点や可能性は、待っているだけでは形成されません。新しい可能性を広げるためには、矛盾と距離感を素直に認め、一緒に考える場を設けていくことが第一歩になると思います。

本報告書を作るにあたって、味埜先生と石井先生の発表に編集者からコメント・感想を書き、また住村先生には、特別に植物の分類に関するコラムを書いていただき、報告書はワークショップ内容の簡単なまとめではなく、新しい読み物としての性格も持っています。

発表者の一人である石井善明先生(RISS特任教授)は、平成21年9月16日、虚血性心疾患(心臓麻痺)のためご逝去されました(享年62歳)。石井善明先生はGLOCOLとRISSの連携を、

またGLOCOLの事業を常に温かく支援していただき、また石井先生のお力を拝借することで、GLOCOLとRISSの協力関係も広がりました。この場を借りて先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

- 1 “文理融合”という概念には、文理融合型、文理対話型などいろいろな表現と解釈がありますが、ここでは、“文理融合型”という表現に統一し、新しいアプローチという意味で使います。
- 2 GLOCOLの活動については<http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/>を、またRISSの活動については <http://www.sdc.osaka-u.ac.jp/>を参照。